

令和5年度 第3回 就労プロジェクト会議 議事録

日 時	令和6年1月25日(木) 午後2時～午後4時	
場 所	アミューあつぎ 602	
出席者	オリーブ デイサービスみどり Studio R のぞみ サンライフ リハスワーク厚木 事務局 厚木市障がい福祉課 いっぽ	工房小野橋・らしくま スペースナナ 紅梅園 アフターネオ本厚木 こもれび succulents ゆいはあと

事務局より

- ・今回初参加の事業所がありますので、特色や作業内容を含め自己紹介をお願いします。

こもれび succulent より

- ・弊所は就労継続支援B型事業所として昨年の5月に開業しました。鳶尾団地の一角に事業所を構えており、多肉植物の栽培と販売を行っています。私自身が異業種からの参入という事で、従業員と共に日々学びながら取り組んでおりますが、先輩方に色々教えて頂ければと思っておりますので宜しくお願い致します。

リハスワーク厚木より

- ・12月1日にオープンしたばかりの事業所で、本厚木駅から徒歩3分程度の距離にある、国際厚木ビルの3階にあります。駅近という事で通勤出来る方が多いと予想していましたが、今のところ全ての利用者さんが送迎を利用されています。弊所はフランチャイズで、石川県能登の檜を使った消臭・抗菌・防虫効果のあるチップや、檜の皮を使った栞の制作をどこの事業所でも行っています。この作業はアセスメントを兼ねており皆さんに必ず行っていただいています。そこから先は皆さんと連携させて頂きながら展開していきたいと考えておりますので宜しくお願い致します。

サンライフより

- ・就労継続支援B型事業所です。開所して間もない事もありまだまだ勉強中ですので皆さん宜しくお願い致します。

～各事業所より自己紹介

(1) 工賃向上に向けた具体的な取り組みに関するアイデアについて

資料参照

事務局より経過報告後、意見交換

デイサービスみどりより

- ・共同受注窓口「てとて」については、企業側からアプローチ出来る様な体制が既に整っているのか。

工房小野橋・らしくまより

- ・企業がホームページを見て直接「てとて」にご連絡を頂く場合もあるが、障がい福祉課に連絡が入る事もある。前回の会議後にホームページとチラシを更新しており、これまでの実績や作業の一例を掲載した。今後は月に1度位営業回りが出来れば良いと考えているが、現実的には営業に時間を割く事が難しく営業スキルも無い。「つばき作業所」が商工会に加入しているとの事だがチラシを撒くのであれば商工会との関わりは有効と考えている。アミューあつぎの「あつまる」に登録する関係で観光協会には加入している。

事務局より

- ・人手不足等の問題があり営業を行う事が難しいという事で、SNS等を使った発信の形を検討しており、あらためてアフターネオ本厚木さんからご意見を伺えれば。

アフターネオ本厚木より

- ・こちらにはクリエイターが在籍しておりご依頼があれば対応は可能と考えているが、素材や進行などの詳細を具体的に詰めていく事が必要。

デイサービスみどりより

- ・作業については、昔ながらの形で作りを行っている場所と、現代的な形で情報発信を製品にする場所との違いが浮き彫りになっているが、それらをどう融合していくのか・どう利用者さんに行って頂くのかと考えている。こちらは利用者の高齢化が進んでおり新しい作業に慣れて頂く事にも難しさを感じている。

工房小野橋・らしくまより

- ・各事業所ともそれぞれに販路を開拓する努力を続けているが、常設で販売を行える場所が「あつまる」だけという現状については、もう1カ所位増えれば良いと考えており、ともしびショップや新しい市役所に期待したい。色々な場所に商品を置いて頂ける様、依頼はあちこちに行っているが、例えば店長の異動で商品を置いて頂けなくなってしまった事もある。

デイサービスみどりより

- ・「あつまる」については、会計もそこで行って頂いているので我々は商品を置くだけで良いのだが、常設で販売を行う場所が増えても、そこに割く人件費や交通費の負担と利益とのバランス等、課題が大きいと考えている。

工房小野橋・らしくまより

- ・作業を頂くには企業側にメリットがなければならず、神奈川県には表彰制度があったと記憶している。厚木市にも表彰制度があれば企業の社会貢献が評価され、それもメリットになるのであれば、営業の際に説明が出来る。

事務局より

- ・具体的な説明は難しいが、表彰制度についての可能性はゼロではないと思われるが、それが障がい福祉課規模なのか、厚木市全体で行う事なのかにもよると考えている。

こもれば succulents より

- ・厚木市SDGs パートナーという制度が有り弊社も登録させて頂いているが、50社近くの企業が登録している。その中に加わる事でスムーズに進むのではないかと。

アフターネオ本厚木より

- ・前回会議の後、東海大学病院さんとのやりとりを機に、直接的な工賃には結びつかなかったが小児科の子どもさんの為に作品を展示させて頂いた。関係構築につながる事が出来ればと考えており、コラボという程ではないが一步ずつ進んでいきたい。厚木市の福祉政策に関心を持っている学生さんは多く、見学の依頼も頂いている。そういった機関との関係が密になる事で、例えば資料や教材の印刷等の仕事を受注出来る可能性もあるのではと考えている。

紅梅園より

- ・初歩的な質問になってしまうが、販売の経験が全く無い為仕入れはどのようにするのか等基本的な事を教えて頂ければ。こちらではクリーニング作業の新規受注を目指しているのだが新規事業も必要と感じており、つながりや紹介で受注作業を頂いているのだが自分達で販路を開拓する為のノウハウ等が無い状態。クリーニングに慣れていた利用者さんの退所や高齢化も進行している為、別の作業も必要になってきた。クリーニング自体はホテルからクリーニング会社が請け負い、もう一つ下請けを挟んで受注している。ホテルから直接受注できれば単価は大きく上がるが、仕事の規模が大きくなればその分負担も大きくなる為、そこに難しさがある。作業量は現在でも手一杯な状態で作業時間内では終わらず、職員だけで残業する事も多い。

事務局より

- ・以前から「コラボ」に関する意見は多く出ているのだが、実際には難しいのか。ふるさと納税の返礼品というアイデアについてもご意見を頂ければ。デジタルサイネージ

については、こちらで素材を作った上で市にお願いをするという形になるのか。

工房小野橋・らしくまより

- ・企業と大学で比べれば、大学の方が実現可能性は高いと思われるが、コネクションがないとそもそも難しい。厚木には大学が5つあり例えば教授に、この会議に参加して頂いたりする等して顔つなぎが出来れば良いと思う。特に印刷やデジタル的な仕事であれば可能性はあるのではないかと。

デイサービスみどりより

- ・返礼品については、選んで頂ければ出せるという形になるので質を高めていく事が必要と考えている。

事務局より

- ・デジタルサイネージについて、宣伝対象は「てとて」になると思われる。一般の方向けの月額料金はとても高いが、障がい福祉課として費用を安くする為の工夫は出来るかもしれない。期間や放映する時間帯の制約はあるが一定期間であれば可能性はあり、共同受注窓口であれば障がい福祉課として申請する事が可能かもしれない。令和5年12月の障がい者週間に合わせた「あつぎ愛テレビ」では、つばき作業所がTV取材された模様が放送されており、グッドトイ賞を受賞した事がきっかけだったと聞いている。TVを含めデジタルを活用した宣伝には一定の効果がある様に感じられ「障がい者週間」に合わせた放映という理由は合理的だと考えられる。
デジタルサイネージについてホームページで費用について調べたところ月18万円程度掛かるとの事だった。検討の為にも、先ずは共同受注窓口の宣伝になる様な良い素材が欲しいと考えている。

工房小野橋・らしくまより

- ・余談だが、過去に2回TVKの取材を受けた事があった。工房の取材と旅行に同行された事があったと記憶しているが演出も含め色々あった割に周囲からの反応は何も無かった。とは言え Youtube や TikTok といった映像を活用する事は良いと考えている。

こもれば succulents より

- ・収益を上げるには個人顧客は大切だが、企業を顧客にすると非常に効率が良い。企業に営業へ行く事は非常にハードルが高いという意味で、市からそういった普及啓発に関する案内は、定期的に市内の企業に行っているのか。市から定期的に企業へアプローチするルートや機会があればその場を活用したいと考えている。SDGs パートナーを増やしていく事は社会全体にとって重要であり、市としても市内横断的に連携して頂ければと考えている。

事務局より

- ・障がい福祉課からという機会は今の所無い。産業関係の部署で行っている可能性はあるが、現時点で障がい福祉課から企業へのアプローチや情報提供は行っていない為確認を行う。

Studio R より

- ・SDGs パートナーについて表彰式を行っているのであれば、その会場で販売会等を行ってみてはどうか。そういった活動に関心を持っている企業が集まっている場所であればハードルは多少低く、そういった場所を活用してSDGsに関心の有る企業と交流を持つ事が出来ればと感じている。

こもれば succulents より

- ・2月半ばにSDGs パートナーが自分達の活動をアピールする為に行う販売会が行われ、弊社も出店予定になっている。皆さんの事業所もSDGsの項目のいずれかには該当する活動をされているので、パートナー登録をする事は十分に可能と考えている。

工房小野橋・らしくまより

- ・SDGsの項目や登録については詳しくないので、調べてみたい。「てとて」で登録させて頂く事についても市に問い合わせをしたいと考えている。

事務局より

- ・SDGsに関連して、何かをやりたいと考えている企業は沢山あると考えており、事業所とそういった企業をつなぐ為の機会や場所について、市としてもご協力を頂ければ有り難いと感じている。デジタルサイネージについても費用面を含め市としての基準や条件について、それらを満たす内容や期間であれば可能性はゼロでは無い為、それらを市に確認していく方向で進めていきたい。
次年度についてはそういった事を少しずつ・具体的に進めていく事が出来ればと考えている。「てとて」の紹介やデジタルサイネージの活用についても皆様のご協力を頂きながら進めていきたい。

(2) 施設入所者の各事業所送迎加算について

資料参照

デイサービスみどりより

- ・工賃アップとは関係のない件で申し訳ないが、今回事務局にお願いさせて頂いた。送迎についての皆さんの実情をお聞きしたくお配りさせて頂いたアンケートになっており、是非ご記入頂ければ。
厚木市では通所施設の交通費の助成が6ヶ月に1度あり実費の3分の2分支給されて

いるが、今年度の夏に電子申請へと切り替わった事を機に「google マップ上で調べた所、距離が2 kmないので申請を却下します」という理由で交通費の支給が受けられなくなった方がいた。施設入所になられた事を理由に却下された方もおり、実際に市内の事業所で同様のケースがあるのかという事を知りたい。交通費が却下された事で施設側の持ち出しが増え、困惑している。県は施設入所中の方も日中活動を利用する事を推奨しているが、施設入所中の方が地域の事業所を利用する事で事業所の持ち出しが増えるという現実がある。実態調査をさせて頂いた上で市に相談をし、県に検討して頂ける様に進めていきたいと考えている。

<アンケート用紙へ記入>

工房小野橋・らしくまより

- ・施設入所中の方が就Bを利用する際には、施設側が送迎を行う事が前提になっていたと記憶しており、本来は施設側が行う事の為、就Bでは加算が取れないという理屈ではないか。

デイサービスみどりより

- ・これまでは施設入所後に地域の事業所は利用出来ない制度になっていた為、画一的に交通費は出せませんと言っている様に感じている。厚木市では交通費の支給に関して2 km以内は支給されない事になっているが、他市では1 kmで出る場所もある。反対に交通費の支給自体を行っていない市町村もある等全体にバラつきは見られるが、市町村毎の対応の違いについては理解できる。その上で、少しでも良い方向に進めていける様に提案をさせて頂きたいと考えており、アンケートへのご協力に感謝したい。

事務局より

- ・施設入所中の方が日中活動の場として地域の事業所を利用する事で、地域の事業所の負担や持ち出しが増えるという現実がある。送迎についても入所施設側が行うのか地域の事業所が行うのかという部分の線引きが曖昧では利用が進まない事が懸念される。引き続き検討を重ねた上で市に相談をし、県に検討して頂ける様に進めていきたいと考えている。

工房小野橋・らしくまより

- ・電子申請に変更になった事で、一括申請では無く一件ずつの申請となり、事務量の大幅な増加が負担となっている。一件ずつ完了のメールが届くのでそれらの確認にも時間を要しており、今後の課題と感じている。

事務局より

- ・通所されている方がグループホームを短期利用される事もあると思われるが、その期間中の利用についてはどのように対応されているのか。

アフターネオ本厚木より

- ・交通費や距離が変わる事はあるが、基本的には通所して頂く様お願いしている。短期利用だけでは無く、グループホームを転々とされる方もおりその都度交通費は変わるのだが、経済的に厳しい状況の方は多く、利用者負担を軽減するという意味で事業所が負担している現状も有るが、日中活動先の確保という観点や現実的な対応という意味で、現状ではやむを得ないと感じている。

デイサービスみどりより

- ・制度面や利用者・ご家族の高齢化に伴い通所が困難になる場合も予想される為、今後どのように対応していくべきか日々悩んでいる。交通費についても、支給されない他市が援護地の方への対応として、ご家族にも制度の違いをご説明した上で負担割合を変更する等の配慮も行っている。当事業所では食事代の負担を頂いていないが、全ての実費分をいただくとなれば手元に残る工賃が無くなるのではないかと懸念も有り、利用者への配慮は今後も続けて行きたいと考えている。

(3) その他

工房小野橋・らしくまより

- ・支援学校から見学に来られた方のご家族から「うちの子は就Bに来られないと思っていました」と言われた事が数回あった。先生からは「何でも一人で出来る様にならないければ難しい」と言われており、生活介護を勧められていた様だ。そういった事はないとご家族には伝える事が出来たが、先生方の固定観念の様に感じられ、先生の意識を変えないといけないのかなと考えている。ベテランの先生でそういった事はないが、転勤等もあり若い先生方では難しい部分もあると思われる。過去に行っていた様に支援学校の先生方に実情を知って頂ける様な会を、年に1回でも設ける事が出来ればと考えている。

事務局より

- ・時期をどこに設定するかという事に学校さんとの調整が必要と思われる。コロナ禍前は行っていたが、それ以降中断している。今後は就労支援の形も変わっていく為、どこにニーズがあるのかをキャッチした上で仕組みを整えていく必要がある。来年度以降の検討課題とさせて頂きたい。

資料参照

事務局より

- ・来年度以降の人材確保施策について参考にしたい。ご意見を頂戴したい。先ず、各事業所の人材は不足しているという認識で問題ないか。次に人材に代わりロボット等で業務を簡略化された事業所があるか。

各委員より

- ・ロボットの定義について、例えば家庭用の掃除ロボットや高スペックPCは該当するのか。介護補助を目的としたロボットだけではなく、実務や運搬等も含めた作業用機械も「ロボット」として助成していただければ大変助かる。

事務局より

- ・現時点では介護・介助に伴うスタッフの身体的な負担を軽減する事を目的としているが、今後に向けて貴重なご意見を伺えたので参考にさせて頂きたい。
次に、厚木市の人材確保支援事業についてご存じない方はいらっしゃいますか。毎年4～5月に周知させて頂いているが周知が行き届いていないという現状がある為、この機会に、該当する職員の方がいらっしゃればご紹介頂ければ。
最後に、毎年4月と10月に人材確保に向けたアンケートを実施させて頂いており結果を12月頃にメールでお送りさせて頂いている。その際、各事業所の採用欄に市の人材確保のホームページのURLを貼って頂けると転入や復職での応募が増えるのではないかと考えておりご活用頂きたい。

各委員より

- ・厚木市では就Bの事業所が多い反面、就Aや生活介護・移動支援等は不足していると感じる。人材はもちろん必要だが、不足しているサービスの事業所を誘致する様な施策や、報酬の改善に向けた県への働きかけ等をご検討頂ければ。

(4) 閉 会

事務局より

- ・皆様お疲れ様でした。来年度は報酬改正があり、就労支援については工賃アップに基づいた改正が示されている事と就労選択支援が新たに創設される事になっており、実際の運用は先になるが、そういったものが示される事になる。個々で取り組むべき事は各事業所で取り組んで頂くが、こうやって色々な事業所が集まって一つのものを作り上げ、それが利用者さんの支援に繋がるのは良い事だと考えている。来年度も引き続きご協力頂きます様、宜しくお願いします。

以上。